

炉棚の設置・火入れ式が行われました

イシオロレ（十勝地方のアイヌ語方言で「ご挨拶申し上げます」という挨拶の言葉）！

令和8年7月14日（火）、阿寒や十勝で活動されているアイヌ文化伝承者の方々によって
伝承室の炉棚が設置されました。

炉棚は、魚や肉、山菜などを置いたり吊るしたりして

食材を乾燥させ保存するのに使われたものです。

炉棚があることで、より炉の存在感が際立ったように見えます。



翌日の 15 日（水）には、伝承室において

火入れの儀式が行われました。

前日の炉棚の設置に携わっていただいたアイヌ文化伝承者の方々をはじめ、

幕別アイヌ協会、マクンベツアイヌ文化伝承保存会、N P O 法人十勝広域連合アイヌ協会から
会長・会員の方々が参列・見学に来ていただきました。

火入れ式とは、アイヌの人々が炉に火の神であるアペフチカムイを迎える儀式です。

アイヌの人々にとって、火はいつも人間を身近で見守り、儀礼の中では

人と他の神（カムイ）を仲介する神（カムイ）です。

2026 年 1 月に魂入れの儀式、炉縁組みの儀式を終えた伝承室の炉に、

はじめての火をともし、アペフチカムイをお迎えしました。

午後 2 時、儀式をはじめる前に

飯田幕別町長、幕別アイヌ協会長の酒井真理さんから

ご挨拶をいただきました。



そして、火入れの儀式が始まります。

火をともし役割を務められたのは、山本みい子フチです。

※アイヌ語の「フチ」は年配の女性に対して敬意を込めた呼称です。



たいまつを使って炉に火をともし、火起こし棒で火を育てます。



副祭司がラッチャク（灯火台）に火をともします。

ラッチャクは、三つ又に分かれた木の上にホタテ貝が置かれたもので、
貝の上の油に浸した麻紐に点火をしました。



そして、アペフチカムイをはじめとするカムイたち（神々）に祈り、
供物を捧げます。





炉縁の四隅に塩を盛ります。





パスイ（カムイに酒を捧げるのに用いられる箸）を使って、トノトとよばれる酒を
アペフチカムイに捧げます。



イナウとよばれる木の幣を炉棚に取り付けます。

イナウは、カムイへの贈り物で、

人間がお祈りした言葉をカムイのところへ伝えてくれる役割をするといわれています。

最後にフチから供え物を捧げます。



このようにして火入れの儀式が行われました。

儀式前の挨拶で酒井真理協会長がおっしゃったように、

「今回ともした火が、この先も絶えることなく、

幕別のこの場所を明るく温かく照らし続けてくれることを願って」

アイヌ文化交流センターが様々な人々の活動・交流の拠点となるよう

尽力していきたいと思います。

(幕別町教育委員会生涯学習課アイヌ文化振興係)